

編集復刻版

精神障害者問題 資料集成

戦前編 全9巻

戦前期、「私宅監置」という名のもとで、

精神障害者は治療を放棄され、社会生活から隔離され、

人権を無視した監禁状態を強いられていた。

全国各地の精神障害者への取締規則、

精神障害者への人権侵害として騒がれた相馬事件、

松沢病院など各地の公立精神病院、私立病院や治療施設、

公立及び代用精神病院長会議、

治安対策としての法政策、私宅監置の実態を調査した自治体の報告、

諸外国の精神障害者対策、患者とその家族を支援する運動、

精神病学講義録、統計、帝国議会議事録、司法精神医学、

植民地の精神病対策にいたるまで、

近代の日本の精神障害者が置かれた状況を明らかにする諸資料を復刻！



編者

岡田靖雄（青柿舎主宰）

小峯和茂（小峰研究所）

橋本 明（愛知県立大学教育福祉学部）

推薦者

松下正明（精神医学史学会理事長）

酒井シヅ（順天堂大学医学史学研究室・
日本医史学会理事長）

藤野 豊（近現代史研究者）

中村 治（大阪府立大学人間社会学部）

体裁 ▼ A4判・上製・総頁数約三二五〇頁

定価 ▼ 本体揃価格二二五、〇〇〇円＋税

配本 ▼ 全3回配本

精神障害者は 日本の近代をどう生きたか

不二出版

精神科医療史に関する重要資料は今ほとんど失われていつている。大学の医学図書館では、新しい雑誌の洪水のなかで、古い資料は、あるいは整理され、古い雑誌は遠隔地の所蔵庫に移されたりしている。貴重な資料が見えなくなった三例をあげておこう。

四五年前、呉秀三・樫田五郎『精神病者私宅監置ノ実況』（内務省本）を、友人の故吉岡眞二は各地の図書館に探した。数か所にその書名カードはあったが、現物はなかったり、去年廃棄したということだった。東京大学医学図書館の未整理本にそれが三冊あった。数か月後には、三冊ともみごとに整理されていた。これを含む何冊もの貴重本が精神医学神経学古典刊行会により復刻されているが、奥付を省いているなどのため、そのうち何冊かの刊行年を誤解させる結果になっている。

精神病者慈善救済会は、一九〇二年に設立された精神科関係社会事業団体である。その機関誌『心疾者の救護』（のち『救済会々報』）を所蔵している所はごく少数で、その初期のものは所在不明である。かつてこの会の事務をとられた村松常雄氏は、所蔵の一〇冊を当時の精神衛生研究所に寄贈された。わたしはその複写をとったが、のちに現物を再確認しようとしたら、行方不明になっていた。

また吉岡は、三〇年ほど岩倉（京都府岩倉村）における、大雲寺―保養所―病院―地域による精神病者看護）研究にたずさわり、三〇〇〇万円ほどの私財を投じて貴重な資料を集めた。岩倉研究をまとめるようにとの再三の要請に、「もうすこし調べてから」とかれは繰り返していた。そして研究成果をほとんど活字化せぬままに、かれは死去した。

わたしは吉岡とともに一九六〇年頃から精神科医療史の資料を集めてきた。そして、精神科医療史研究会として一九八四年から、めずらしい資料のコピーを『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』の名で、二〇

〇四年の第六〇号まで発行してきた。吉岡の死後、所蔵庫の場所を移し、「青柿舎（精神科医療史資料室）」を名乗ることにした。もちろん、財力のない個人が集められるものはない。珍しい資料も集まった。これらをどう世に伝えるのがよいか。資料集として刊行するのが一番よいだろうと思うにいたった。幸い、小峰研究所の所蔵品を守っておられる小峰和茂氏、実証的研究に力をそそいでいる橋本明氏の協力をえることができて、編集にはいった。足りないところは、不二出版編集部に調査をしていただいた。

国会図書館では資料のデジタル化が進んでいる。こちらに入れたかったものでも、「近代デジタルライブラリー」にはいったものは原則として省いた。各地に埋もれている資料はまだまだあるだろう。この資料集が、それらを世に出すきっかけともなることを願うものである。数が集まれば補巻を出すことになる。力が残れば、さらに戦後編まで出したいと思っはいるが……

二〇一〇年八月



持続浴療法（松沢病院）

内容見本

復刻版一ページにつき原本四ページ分を面付けしてあります

精神病者 監護法令 自問自答録

自序

種ニ人ヲ拘束監禁スルハ明カニ法ノ禁スル處而カモ特リ精神病者ヲ監護スルニ於テ之ヲ許スルモノアルハ蓋シ社會自衛ノ必須要求ニ基ク特別變例ナリトス唯夫レ變例ナリ故ニ一朝其ノ制拘拘禁ノ法令ニ戻リ若ハ須要限度ヲ超フルコトアラムカ不法拘監ノ責任ヲ之ニ負テ生スヘシ爰テ以テ其ノ監護ニ任シ或ハ其ノ行政ノ職司ニ在ル者必ス克ク斯法ニ通曉シ寸毫モ違フコトナキヲ切要ナリトス然リト雖法令繁難ニシテ之ヲ咀嚼シ之ヲ玩味スル固ヨリ容易ナラス

明治三十七年五月

著者誌

精神病者 監護法令 自問自答録 目次

- 第一問答 精神病者監護ニ關スル法令
第二問答 監護義務者タルヘキモノノ
第三問答 監護義務者ノ順位
第四問答 監置ノ手續
第五問答 許可ヲ受ケスシテ監置シ得ル場合
第六問答 監護義務者ノ順位變更
第七問答 監護義務者ノ選任
第八問答 監置方法及場所ノ變更
第九問答 被監置者治癒、死亡、行方不明及監置廢止ノ場合
第十問答 他管内ヨリ精神病者ヲ轉入シタル場合
第十一問答 精神病者ノ拘束方法
第十二問答 監護費用ノ負擔者
第十三問答 精神病院、病室設置
第十四問答 精神病院、病室及私宅監置室ノ使用

- 第十五問答 精神病院ノ法定義務
第十六問答 市區町村長ニ於テ監置ヲ爲スヘキ場合
第十七問答 行旅中ノ精神病者取扱方
第十八問答 監護義務者ニシテ扶養義務ナキ場合
第十九問答 監護義務者ニ於テ監置ノ命ヲ履行セサル場合
第二十問答 市區町村長カ警察官署ヨリ精神病者ノ引渡ヲ受ケタル場合
第二十一問答 市區町村長カ監獄ノ首長ヨリ精神病者ノ引渡ヲ受ケヘキ場合
第二十二問答 市區町村長ニ於テ監置シタル者ノ監置方法及場所ノ變更
第二十三問答 市區町村長ノ監置廢止
第二十四問答 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒、死亡、行方不明ノトキ
第二十五問答 市區町村長ニ於テ監置シタル費用ノ支辨方法
第二十六問答 警察官署ニ於テ監置願届ヲ受ケタル場合
第二十七問答 精神病者タル在監人引渡ノ通知ヲ受ケタルトキ警察官署ノ取扱方

これからの精神科医療を 考えるための必読文献

松下正明

現在の日本の精神科医療は曲がり角にきているといわれて久しい。これからの精神科医療のあるべき姿が今なお暗中模索されているとき、過去の、とくに明治初期以来の近代精神科医療の歩みを改めて振り返って見る必要がある。

本復刻版には、精神科医療に関わる種々の規則、通達、統計、あるいは議会における議事録にはじまって、府立松沢病院史などよく知られた文書から、一般にはほとんど目にするのできない精神鑑定書、個々の病院の案内、パンフレットに至るまで、よくぞこころで集めたものだと思心するほどの多くの資料がまとめられている。

本復刻版は、日本の近代精神科医療を省みながら、これからの精神科医療を考えるときの必読文献集といってもよい。そして、これらの資料をいかに読み込んでいくのが読者に問われることになるだろう。

私にとっても初見の資料が数多くあり、明確な問題意識をもって、じっくりと勉強していきたいと思っている。
(まつした・まさあき 精神医学史学会理事長)

病者の人権問題を 追究するために

藤野 豊

近代日本では、特定の病者が国家により法的に差別・迫害されてきた。その象徴がハンセン病患者と精神障害者であろう。ともに共通する迫害の理由は、「文明国」という国家意識、総力戦体制構築に向けた優生思想、そして治安対策である。さらに、戦後に至っても、「公共の福祉」の美名を掲げて国家は迫害を正当化し、わたくしたちも民主主義の法衣をまとった差別政策を受容してきた。こうしたなか、すでに『近現代日本ハンセン病問題資料集』を刊行した不二出版が、このたび『精神障害者問題資料集』を刊行されたことに感銘を覚える。そして何よりも、編者が岡田靖雄先生であることに深い敬意を表したい。

ここに収められた膨大な資料は、法令、統計、医学研究に関するものもとより、病院の運営、医療・看護の実態など多岐に及ぶ。刊行された活字資料に止まらず、多くの原資料も含まれている。近代日本の精神障害者に対する歴史を知ろうとするあらゆる専門分野のひとびとを満足させるであろうことは疑いない。さらに、資料の選択などの編集には岡田先生の病者の人権を守ろうとする視点が貫かれている。それは、植民地の資料まで渉獵された事実にはあらわされている。まさに岡田先生だからこそ、なされた資料集ということができる。わたくしは、抑えられない興奮を胸中に感じつつ、本資料集を病者・障害者の人権に関わるすべての方々に心より推薦したい。

(ふじの・ゆたか 近現代史研究者)

差別の実態を浮かび上がらせる 資料群

酒井 シヅ

明治維新後から戦前までの八〇年余、精神障害者が近代化の名の下に受けてきた待遇に関する資料の総集編である。半端なものではない。さすが岡田靖雄氏の編集になるものと感嘆した。岡田氏は『私説 松沢病院史』を著し、東京大学精神医学の名誉教授で日本の精神医学の基礎を築いた呉秀三について『呉秀三 その生涯と業績』『呉秀三著作集』などを出版した、精神医療史研究者として右に出る者がいない方である。長年、精神科医療史資料室を主宰して、こつこつと集められた資料がここに「資料集」として公にされることになったのだろう。うれしいかぎりである。

呉秀三は、私宅監置に関する論文のなかで、日本の精神障害者が病の苦しみの上に「この国に生まれたら不幸」を負わされたことを指摘したが、私宅監置だけでなく、精神障害者を社会から隔絶するためにできた精神病院、精神障害者に対する法律などによっても差別された。精神障害者がどのような待遇をうけたのか、ここに収録された資料のタイトルをみるだけでも想像がつく。人権問題が論じられて長い時間が経つが、精神障害者とその対象になったのは戦後であった。それだけにこの資料集が語る意味は重い。

(さかい・しづ 順天堂大学医学史学研究室・日本医学史学会理事長)

精神医療史研究の 飛躍的進展を期待

中村 治

精神障害はかなり高い率で必ず出てくるものである。そうであるなら、そのような障害を持った人にとどのように対応するかは、われわれの身近な人に精神障害が発生した場合はもちろんのこと、社会全体にとってもきわめて大きな問題であったし、あり続けている。社会としてこの問題にこれからのように対応していけばよいのかを考えるためには、これまで社会が精神障害者にどのように対応してきたのかを見ておくことが大いに参考になると思われるが、それを示してくれる資料が乏しかった。

正確に言えば、散逸した資料も多いのであるが、図書館や資料室や個人の書架の奥深くに収蔵されていた資料が多く、それを探し出す方法が限られていたのである。

このたび不二出版から『精神障害者問題資料集』が出版される。鑑識眼をそなえた岡田先生と小峯先生が長年にわたって収集されてきた資料に加え、資料に対する特別な嗅覚をそなえた橋本先生と資料探しの専門家の野田氏が全国の図書館をまわって集めてこられた資料が核になっている。

これからの精神医療史研究は、これらの資料を参照しておくことが前提となるであろうし、研究の精度が飛躍的に向上することであろう。

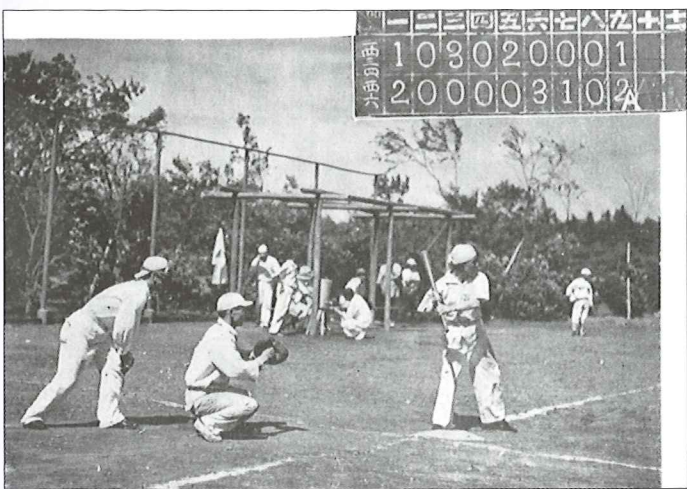
(なかむら・おさむ 大阪府立大学人間社会学部)

関連年表

(本資料集成収録のものを中心に)

年	月	事項
一八七三	8	粹巫子子憑祈禱狐下等禁止(教部省第二号)
一八七四	12	医制発布
一八七五	7	京都南禅寺に最初の公立精神病院・京都癲狂院開業、これにもとない近代以前からの精神療養施設であった京都岩倉での茶屋に対し、精神病者を宿泊させ長期看護することを布令により禁止
一八七九	9	東京警視庁、癲癲人及び不良子弟の私宅鎖固について布達、甲第三八号
一八七八	5	東京小松川に癲狂病院開業
一八七九	12	加藤照業、東京本郷区田町に癲癲病院を開業
一八八〇	11	東京府癲癲院の創業(のちの東京府癲癲院/東京府立松沢病院)
一八八二	3	群馬県前橋市内の僧侶と有志で救済事業を開始(のちの前橋積善会)
一八八二	10	京都に木瓜原癲癲院創立
一八八四	8	京都に岩倉癲癲院(のちの岩倉病院)設立
一八八六	12	神代、帝國大学医科大学で精神病学講義をはじめる
一八八七	1	東京府癲癲院に入院中の田中村藩(現在の福島県北部)藩主相馬誠胤を、田藩士錦織剛清が連れ出す
一八八九	5	東京府癲癲院の医務は医科大学が負担
一八九一	9	京都に船岡癲癲院設立
一八九三	7	前年相馬誠胤が死亡したのは家令らによる毒殺であると錦織が告訴、しかし免許
一八九四	4	東京警視庁、精神病患者取扱心得を発布(訓令第二五号)
一八九八	12	日本禁酒同盟設立
一九〇〇	9	東京脳病院開設(のちの田端脳病院)
一九〇一	3	精神病患者監護法公布
一九〇二	10	呉秀三、留学から帰国し東京帝国大学医科大学教授、東京府癲癲院院長(一九〇四年院長)となる
一九〇三	4	日本神経学会創立
一九〇九	10	精神病患者慈善救済法設立
一九一六	5	同会、機関誌『心疾者の救護』発刊
一九一八	6	横濱脳病院設立(のちの横濱脳病院/横濱病院)
一九一九	3	東京帝国大学医科大学に精神病患者慈善救済法会寄付による精神病室落成
一九二〇	4	呉秀三・榎田五郎「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察」発表。このなかで日本の精神病患者には病気であるほかに「此邦ニ生レタルノ不幸」がある
一九二一	6	精神病院法公布
一九二二	3	このころ森田正馬、「森田療法」を創始

一九二二	4	日本精神病医協会設立
一九二二	6	「心疾者の救護」改題「救治会々報」となる
一九二五	5	熊谷脳病院設立(埼玉県、のちの西熊谷病院)
一九二六	4	大阪府立中宮病院創立(のちの大阪府立精神医療センター)
一九二七	1	前年発足の日本精神衛生協会(民間団体)が機関誌『脳』発刊
一九二八	6	前橋積善会、既橋病院を開院
一九二九	3	神奈川県立芦香院設立(のちの神奈川県立医療センター)がや病院
一九三一	7	日本精神衛生協会発足
一九三二	6	鎌倉脳病院設立(神奈川県、のちの藤沢病院)
一九三二	12	公立及代用精神病院院長会議
一九三三	6	根岸病院労働争議
一九三三	6	川越脳病院設立(埼玉県、のちの川越同仁会病院)
一九三四	4	公立及代用精神病院協会の機関誌『和光』創刊
一九三六	10	鶴見西井脳病院設立(神奈川県、のちの鶴見西井病院)
一九三六	11	国府台病院設立(千葉県、のちの式場病院)
一九三六	2	松沢病院入院中の芦原将軍没
一九三七	1	兵庫県立光風寮設立(のちの兵庫県立光風病院)
一九三八	1	厚生省設立
一九四〇	5	国民優生法公布
一九四三	5	精神厚生会結成



患者野球リーグ戦の実況(東京府立松沢病院、1939年)

目次

資料名 編著者名(発行所) 発行年月

第1巻

- I 初期資料(解説 岡田靖雄)
狂気人御説論御願
相馬家紛擾之顛末
II 各地の「瘋癲人」取締規則等
瘋癲人鎖鋼願
瘋癲人取締規則
III 巢鴨病院/松沢病院(解説 岡田靖雄)
東京府立松沢病院ノ歴史及患者統計
学精神病学教室ノ歴史及患者統計
東京府立松沢病院規則
蝶友会々則・同施行細則
入院後ノ心得
東京府立松沢病院案内
東京府巢鴨病院
松の縁第一選集
救治会埼玉支部創立趣意書
精神衛生運動(精神衛生パムフレット第一輯)
教育と精神衛生
精神衛生運動とは?
神奈川県精神衛生協会設立趣意書
IX 精神科看護(解説 岡田靖雄・小峯和茂)
癲狂院に於る精神病看護学
根岸病院看護法
看護夫名簿綴込
根岸病院保養院争議団解決条項
東京府代用精神病院従業員給与待遇調査一覧表
根岸病院争議闘争方針書
根岸病院争議団解決に起て!
隠忍百二十一日戒厳令の解除と共に精神病院保養院の暴状を訴ふ!!
X 酒害(解説 岡田靖雄)
酒は何故に飲んで悪いか
酒の害全
XI 精神病学講義録/教科書(解説 岡田靖雄・正橋剛二)
断訟医学 乾・坤
柳教授精神病学

第2巻

- III 巢鴨病院/松沢病院(年表類)(解説 岡田靖雄)
明治二十九年巢鴨病院医事年報
自大正九年至大正十三年東京府立松沢病院年報
昭和三年東京府立松沢病院年報
昭和十四年東京府立松沢病院年報
IV 公立精神病院(解説 岡田靖雄)
大正十五昭和元年大阪府立中宮病院概況報告書
神奈川県立芦香院概要
県立精神病院光風寮建築概要
V 私立精神病院(解説 岡田靖雄)
木瓜原狂病院補助金集帳
入院心得書
顛狂院諸病院規則
和光第壹号
鎌倉脳病院十週年記念誌
岩倉病院史草案
子・平賀ハツ・青山はる代
VI 精神病者監護法および精神病院法(解説 岡田靖雄・橋本明)
群馬県管下精神病者私宅監置状況視察報告

第3巻

- IV 公立精神病院(解説 岡田靖雄)
大正十五昭和元年大阪府立中宮病院概況報告書
神奈川県立芦香院概要
県立精神病院光風寮建築概要
V 私立精神病院(解説 岡田靖雄)
木瓜原狂病院補助金集帳
入院心得書
顛狂院諸病院規則
和光第壹号
鎌倉脳病院十週年記念誌
岩倉病院史草案
子・平賀ハツ・青山はる代
VI 精神病者監護法および精神病院法(解説 岡田靖雄・橋本明)
群馬県管下精神病者私宅監置状況視察報告

第4巻

- VI 精神病者監護法および精神病院法(解説 岡田靖雄・橋本明)
群馬県管下精神病者私宅監置状況視察報告

第7巻

- XII 統計(解説 岡田靖雄)
精神病者調査票記入参考
精神病者地方別表
精神病ニ関スル統計
精神病者収容施設調
XIII 議会議事録(解説 岡田靖雄)
「精神病者監護法・議事録」
「精神病院法・議事録」

第8巻

- XII 統計(解説 岡田靖雄)
精神病者調査票記入参考
精神病者地方別表
精神病ニ関スル統計
精神病者収容施設調
XIII 議会議事録(解説 岡田靖雄)
「精神病者監護法・議事録」
「精神病院法・議事録」

第9巻

- XIV 司法精神医学その他(解説 岡田靖雄)
犯罪と精神異状
精神病保護施設に就て
昭和十五年年度麻薬中毒者救護会年報

第6巻

- XI 精神病学講義録/教科書(解説 岡田靖雄・正橋剛二)
断訟医学 乾・坤
柳教授精神病学

精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察(一)
(四)「東京医学会雑誌」第拾玖卷第十号(第十三号)
三・櫻田五郎

精神病者保護取締ニ関スル意見
監置精神病者発病原因調査報告
精神病院若クハ精神病者取扱ニ関スル法令改正ノ意見
精神病院法並精神病者監護法及関係例規昭和八年八月公立及代用精神病院々主院長会

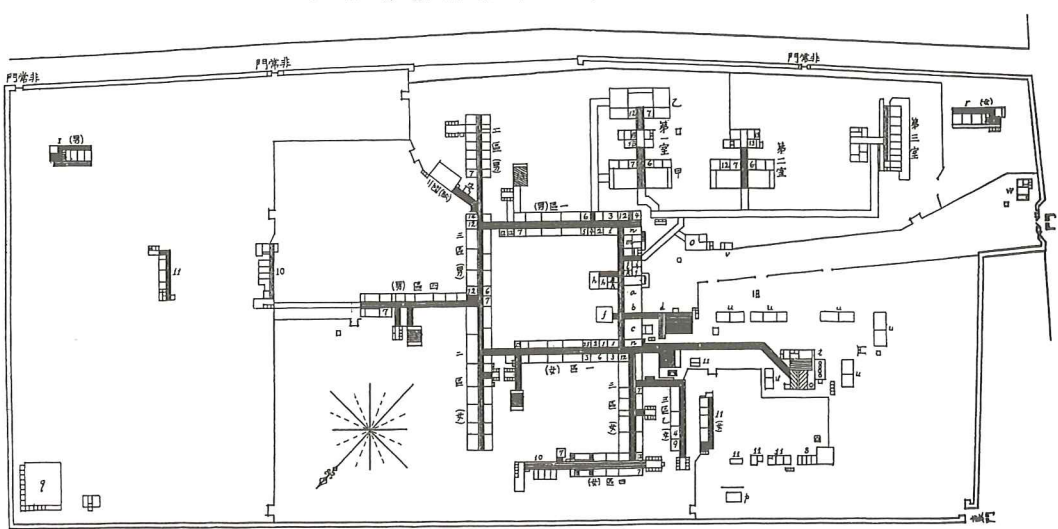
最近三ヶ年度ニ於ケル精神病者監護費調
私宅監置室の構造見取図
建議案 精神病患者ノ待遇統一ヲ望ムノ意見書

VII 諸外国の精神病者対策(解説 岡田靖雄)
一八五二・一八九八年間ニ於ケル病院収容精神病者一人ニ対スル人口割表
各国ニ於ケル精神病者保護法並其ノ施設概要

第5巻

VIII 精神病者慈善救済会および日本精神衛生協会(解説 岡田靖雄)
救治会の趣旨及規則
庶務日誌
心疾者の救護
救治会々報
精神病学に関する常識及精神病院入院の手引附全国精神病院及収容施設一覧

明治三十三年七月頃ノ東京府巢鴨病院



1 門衛 2 事務室 3 事務室 4 事務室 5 事務室 6 事務室 7 事務室 8 事務室 9 事務室 10 事務室 11 事務室 12 事務室 13 事務室 14 事務室 15 事務室 16 事務室 17 事務室 18 事務室 19 事務室 20 事務室 21 事務室 22 事務室 23 事務室 24 事務室 25 事務室 26 事務室 27 事務室 28 事務室 29 事務室 30 事務室 31 事務室 32 事務室 33 事務室 34 事務室 35 事務室 36 事務室 37 事務室 38 事務室 39 事務室 40 事務室 41 事務室 42 事務室 43 事務室 44 事務室 45 事務室 46 事務室 47 事務室 48 事務室 49 事務室 50 事務室 51 事務室 52 事務室 53 事務室 54 事務室 55 事務室 56 事務室 57 事務室 58 事務室 59 事務室 60 事務室 61 事務室 62 事務室 63 事務室 64 事務室 65 事務室 66 事務室 67 事務室 68 事務室 69 事務室 70 事務室 71 事務室 72 事務室 73 事務室 74 事務室 75 事務室 76 事務室 77 事務室 78 事務室 79 事務室 80 事務室 81 事務室 82 事務室 83 事務室 84 事務室 85 事務室 86 事務室 87 事務室 88 事務室 89 事務室 90 事務室 91 事務室 92 事務室 93 事務室 94 事務室 95 事務室 96 事務室 97 事務室 98 事務室 99 事務室 100 事務室

編集復刻版

精神障害者問題資料集成 戦前編 全9巻

体裁 ▶ A4判(4面付け方式)・上製
総頁数 約3,150頁

編者 ▶ 岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明

解説 ▶ 岡田靖雄・小峯和茂・橋本 明
野田武志・正橋剛二

協力 ▶ 野田武志・板原和子・小林ひとみ

松下正明 (精神医学史学会理事長)

推薦 ▶ 酒井シヅ (順天堂大学医史学研究室・日本医史学会理事長)
藤野 豊 (近現代史研究者)

中村 治 (大阪府立大学人間社会学部)

定価 ▶ 本体揃価格 225,000円 + 税

配本 ▶ 全3回 (解説は各巻の巻末に付きます)



2010年12月 本体75,000円 + 税 ISBN978-4-8350-6800-8			
第1回配本	第1巻	I 初期資料	解説 岡田靖雄
		II 各地の「癡癡人」取締規則等	解説 岡田靖雄・野田武志
	第2巻	III 巢鴨病院／松沢病院	解説 岡田靖雄
		IV 公立精神病院	解説 岡田靖雄
		V 私立精神病院	解説 岡田靖雄
2011年6月 本体75,000円 + 税 ISBN978-4-8350-6804-6			
第2回配本	第4巻	VI 精神病患者監護法および精神病院法	解説 岡田靖雄・橋本明
		VII 諸外国の精神病患者対策	解説 岡田靖雄
	第5巻	VIII 精神病患者慈善救済会および日本精神衛生協会	解説 岡田靖雄
		IX 精神科看護	解説 岡田靖雄・小峯和茂
		X 酒害	解説 岡田靖雄
	第6巻	XI 精神病学講義録／教科書	解説 岡田靖雄・正橋剛二
2011年12月 本体75,000円 + 税 ISBN978-4-8350-6808-4			
第3回配本	第7巻	XII 統計(衛生局年報など)	解説 岡田靖雄
	第8巻	XII 統計	解説 岡田靖雄
		XIII 議会議事録	解説 岡田靖雄
	第9巻	XIV 司法精神医学その他	解説 岡田靖雄
		XV 植民地の精神病対策	解説 岡田靖雄

既刊図書 編集復刻版

近現代日本ハンセン病問題
資料集成

A4判・B5判・上製・総一四、〇〇〇頁
二〇〇二年六月〜〇九年五月配本完結

《戦前編》全八巻

揃定価 ▶ 本体一九〇、〇〇〇円 + 税

《戦後編》全一〇巻 + 別冊一

揃定価 ▶ 本体二四〇、〇〇〇円 + 税

《補巻》全一九巻 + 別冊二

揃定価 ▶ 本体四四一、〇〇〇円 + 税

戦場心理の研究 全四冊

早尾庸雄 著

岡田靖雄 解説

B5判・上製・総九九八頁

揃定価 ▶ 本体三二、〇〇〇円 + 税

資料集成

戦争と障害者 第1期・全七冊

清水寛 編

A4判・上製・総約二五三二頁

揃定価 ▶ 本体一四〇、〇〇〇円 + 税

知的身体障害者問題

資料集成 (戦前編) 全一六巻

高橋淳子・平田勝政 解説

A4判・上製・総六、〇六四頁

揃定価 ▶ 本体四〇〇、〇〇〇円 + 税

不二出版

*表示価格はすべて税別

▶ 〒113-0023

▶ 東京都文京区向丘 1-2-12

▶ TEL 03-3812-4433

▶ FAX 03-3812-4464

▶ 振替 00160-2-94084

2010年11月